

令和2年度
日本リハビリテーション専門学校
第1回学校関係者評価委員会議事録

1 日 時

令和2年12月3日（木）16:00～17:00

2 場 所

日本リハビリテーション専門学校イセビル2階 ※オンライン開催

3 メンバー

外部委員：福光、白杵、横山、三沢、山下、綿貫

内部委員：二瓶、草野、工藤、阿部、黒木、木下、深瀬、手塚、河邊

事務局：谷田部、一柳

4 会議内容

以下議題に添って進行 進行：深瀬

【議題】学校関係者評価委員会

- I. 令和2年度新入生アンケートについて
- II. 令和元年度卒業生アンケートについて
- III. 国家試験対策委員会より
 - ① 昨年度の報告
 - ② 問題点
 - ③ 今年度の取組み
 - ④ 国家試験結果について

学校関係評価委員会を開始、資料に添って説明。

<意見交換>

福光委員 高度専門士付与を望んでいる学生が大半を占めているので、これは引き続き頑張ってもらいたいと思います。「十分勉強したとは言えない」という学生が多い。なるべく入学の早い時期に勉強するような対策をして頂ければ良いかなと思います。

深瀬委員 昨今の学生は学習スタイルが確立されていない者が多く、一方で高い志を持って入学してくる者もいる為、どういった学生に焦点を合わせていけば良いか我々も悩むことが多いところです。

阿部委員 初年次教育ということで取り組んではいるが、特に1年生で「こんなに大変だとは思わなかった」ということがやはりある。入学前に学習会や面談等行っているが、入学から卒業までの一貫したプログラムを作っていきたい。4月5月がとても重要な時期であると認識しております。

白杵委員 臨床の立場でお話させて頂くと、このコロナ禍で実習が中止や縮小となって、学内実習が養成校によって差があると聞いている。学内実習の内容、またそういった学生が実際に臨床現場に出てきた時にどのような事が必要になってくるのかをお聞きしたい。

黒木委員 学内実習の取組みについては大変苦勞しました。動画等を用いたが、頭の中で考える作業が多かった。オスキーや実技実習についても感染対策をしながらとなった。経験値を上げるまでにはならなかったかもしれない。課題についてはハードルが高いものとなった。学生の力量にも寄るが、低い学生だと半年位は学生と同じような指導をして頂かないと厳しい面もあるかもしれません。

深瀬委員 OT学科についても実習は縮小されて学内実習で対応をしました。実際に実習現場で指導を受けた回数が少ない為、臨床現場に出た際に不安は確かにあると思います。ぜひ職業人として厳しくご指導頂ければ幸いです。

横山委員 PT/OTの職域が広がっていく可能性が高い中で概論的な教科や、高齢化が進む中で内科学老年学にあまり関心がない学生が多いように見受けられます。何になっていきたいのか、どういった人材がこれから期待されているのか、その辺りはいかがでしょうか。

深瀬委員 どの授業がどのように臨床に繋がっていくのかという事も指導をしていきたいと考えておりますが、学生は授業内容について一喜一憂してしまう面がある。指定規則の改定で社会の流れに沿った科目も増えていますので、我々も学生に対してそのような視点を持って取り組んでいきたいと考えております。

横山委員 自分の興味も大切にしながら、社会のニーズに対しても学生が考えられるような機会を与えるご指導をして頂ければと思います。

三沢委員 以前よりも地域に関して興味関心のある学生が増えているように感じました。先生方の工夫があったのかなと思いました。どう社会に求められる専門職になっていくのかという事は、養成校にいる時から考えて臨床に繋げてもらいたいと思っています。これからはIT等も含めて色々なことに興味を持って、時代に即した教育が必要だと思いますので、我々臨床現場ともお互いに追及できればと考えております。

山下委員 実習時間が多いことで入学された学生が多いので、臨床側としてもなるべく担保できないかなと感じたり、またこのコロナ禍における学校の取り組みを入学志望者へ伝えていければ良いのではないかと思います。国家試験結果については個人的にも満足いく結果だと思います。コロナ禍での学生への指導の質を担保する環境整備が必要になってくるのではないかと感じました。

深瀬委員 教育の質の担保がこのコロナ禍においてどれだけ出来るかを我々も知恵を出し合いながらやって参りましたが、現状本当に出来ているのかの検証も必要になってくると思っています。実習時間については来年度以降も縮小が必要になってくるかもしれないので、学内実習の検証も必要だと感じています。感染防止対策の消毒作業も我々教職員で分担して行っている状況です。教員のリソースとして今後の課題となるかもしれません。

綿貫委員 「勉強が大変だった」とありますが、私自身、大学から日リハに入学したが、勉強する量については大変な差がありました。「実習が多いから日リハを選んだ」ともありましたが、新卒者の入学者が増えているので、厳しい面も入学前に伝えていくことも学校として必要になってくるのではないかなと思いました。

深瀬委員 勉強があまり得意でない学生が増えている印象はあります。入学前に厳しさを伝えるのは難しい面もあるが、入学前や入学後早い時期に色々な指導が必要であると感じております。特に今年度はコロナ禍で厳しい面がありましたので、来年度はそういった部分を取り組んでいければと思っています。

工藤委員 今回初めてのオンライン開催となりましたが、限られた時間の中で大変有意義なものとなったと感じました。次回以降もぜひ宜しくお願い致します。今日は本当にありがとうございました。

草野委員 本日は貴重なご意見を戴きまして誠にありがとうございました。先生方から戴きましたご意見は今後の学校運営に役立てて参りたいと思います。今後とも宜しくお願いいたします。